

文化箏^{こと}入門

羽衣

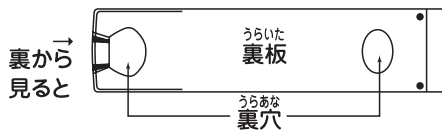
文化箏は本来のお箏を基本とした分数箏です。本物同様総桐製で、糸も本物と同じものを使用していますが、誰でも手軽にお箏の音色を楽しめるように形を小さく改良しました。そして簡便な替え糸や開放弦方式を取り入れることによって、糸締めや調弦のわずらわしさをかなり緩和することができました。また楽譜も五線譜や本来の難しい書き方を避け、数字譜を使うことによって最初から曲が弾けるように工夫されています。更に短くしたことによって押し手がずいぶん楽になり、内容が大きく広がりました。このお箏で練習することによって将来は本来のお箏にも進んでいけるようになっていきます。

ひとりで弾いてもグループで弾いても楽しい日本のお箏の音色を文化箏羽衣でどうぞお楽しみ下さい。

はじめに

本書は初めて文化箏羽衣に取り組む人のための手引き書です。
楽器の紹介や、簡単な楽譜の見方等が書いてありますので、始める前によく読んで下さい。

付属品は文化箏の裏穴うらあなに入っています。

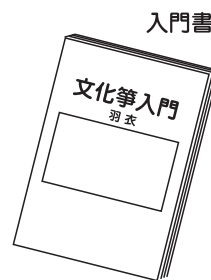
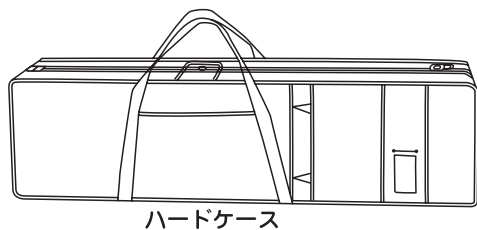
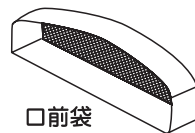
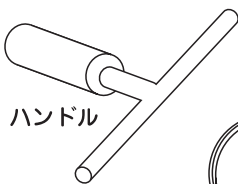
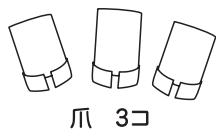
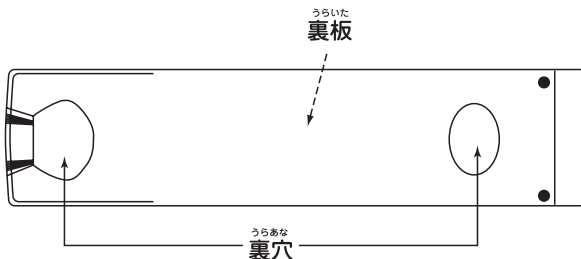
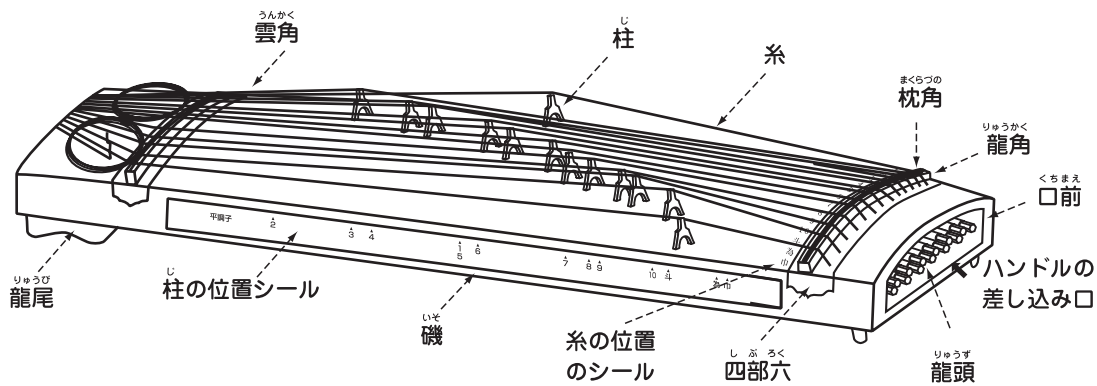


箏柱、調子笛、爪とハンドルは
小物袋の中に入っています。



各部の名称

(文化箏セット)



こんなかわいいお^{こと}箏があったなんて…

- 文化箏は全長86cmで本来のお箏の半分以下です。
長さ86cm 幅20cm（中央部）高さ10cm

- 文化箏は本来のお箏と同じように桐の木でできています。

主要部分・総桐製

四分六 かりん材

糸 テトロン製（17.5匁）

柱 樹脂製

（いずれも本来のお箏と同じ）

- 文化箏はとっても軽いんです。

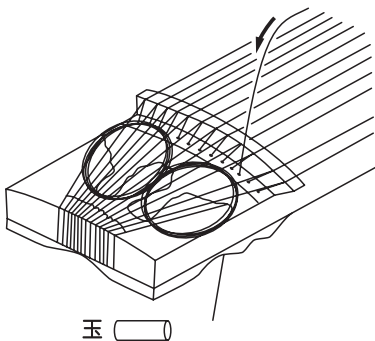
重量 約3kg

居間のテーブルの上にひょいと乗せることができます。

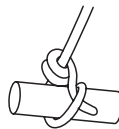
糸が切れた時

長い間練習していると糸が切れることがあります。これは弾いている部分がすり減って切れるので仕方ありません。その場合は替え糸（別売）を取りつけます。まず切れた糸を取り除いて下さい。その後図のようにタマを結び、ハソドルで巻き上げます。とてもよく伸びますからしっかり引っぱっておいて下さい。替え糸が出来るのは文化箏の特徴であり、本来の箏の場合は専門家に頼まないと糸の張り替えは出来ないのです。

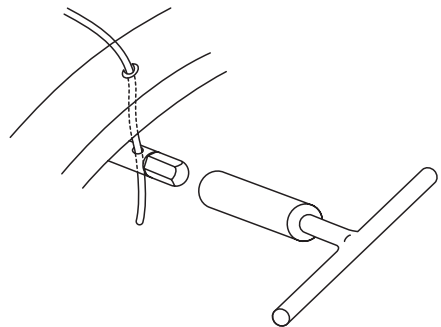
①糸を上から通す



②タマを結び
(2度通し結び)



③もう片方をハンドルで巻く



文化^{こと}箏の特徴

- 本来のお箏の良さをなるべく損わないようにして形を小さくしました。
- 開放弦方式を取り入れることによって調弦のわずらわしさをかなり緩和することができました。
- 13本の糸を識別しやすいように、甲らにシールを貼りました。
- 高音域ながら、素朴な音色を出すことに成功しました。
- 糸が切れても自分で取り替えられるようになっています。
- 糸の間隔が狭く、お箏の最も基本的な手法である合わせ爪がやりやすくなっており、また弦長が短いため押し手が楽で、小さなお子さんには最適になっています。
- 修業とか専門家育成等といった堅苦しい雰囲気避け、最初から曲が弾けるようになっています。曲も高度なものではなく、よく知られている唱歌やわらべ唄を中心に初めから少し楽しさが感じられるようになっています。
- 本来のお箏に進んでいけるよう注意が払われています。

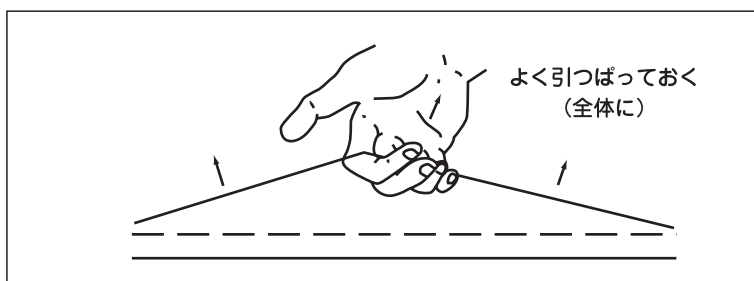


調 弦

使い方

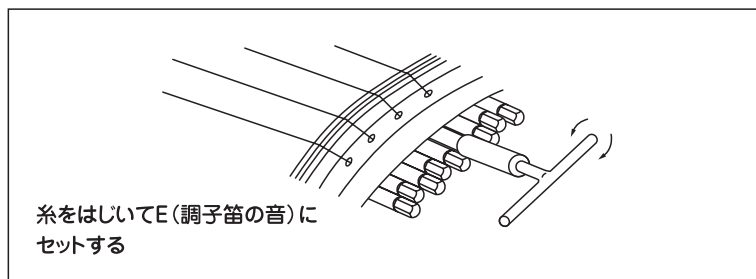
① 糸をよく伸ばす

まずお箏を目の前に置いてみましょう。口前のほうが右です。お箏は桐の木でできています（総桐）。その上に13本の糸が張ってあります。昔は絹糸でしたが、今日ではほとんどテトロン製になりました。向こうがわから1.2.3…10と呼び、11番めは斗(と)、12番めを為(い)、そして13番めを巾(きん)と呼びます。これに柱(じ)を立てると、じつに妙なる響きができるわけですが、その前にお箏の糸は大変伸びるのであらかじめよく引っぱっておきます。



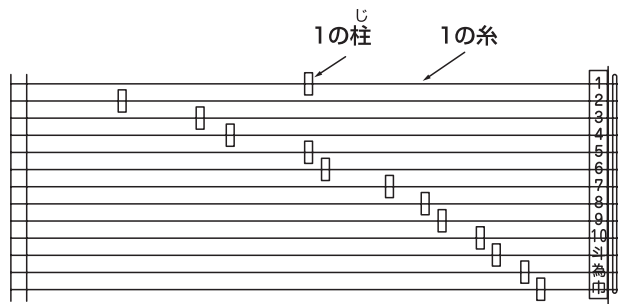
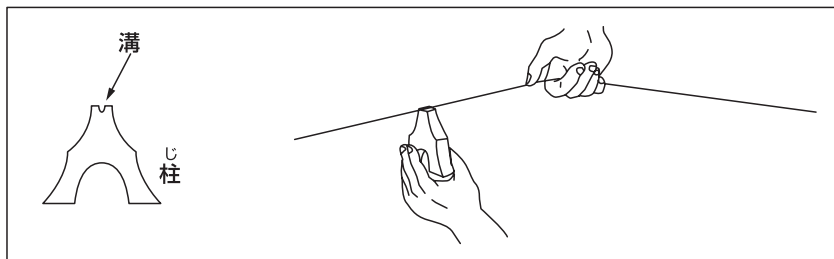
② 開放弦を調子笛(Eの音)に合わせる

この文化箏羽衣は本来のお箏と違って柱を立てなくてもはじくと音が出るようになっています。これを開放弦と言います。柱をきれいに並べるためにあらかじめこの開放弦をすべて同じ音に揃えておきます。附属の調子笛を使って13本すべての音をこの音E(ミ)に合わせて下さい。上げ下げはハンドルを使ってピンを回して行います。糸はかなり伸びるので少し締めたらまた何度か引っぱって伸ばして下さい。この作業は慣れないうちは大変だと思いますが、調子笛より高い方低い方よく聞きながら時間をかけてゆっくり合わせて下さい。ピンはちょっと回しただけでかなり音高が違ってきますからご注意下さい。

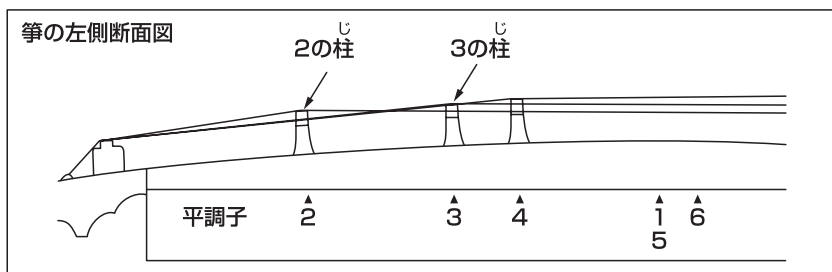


③ 柱を立てる

さて柱を立てます。お箏は柱を立てることによって、本当の音が出ます。しかしどこに立ててもいいのではなく、きちんとした調子(音階)になるように正しい位置に立てなければなりません。これを調弦(ちょうげん)と言います。お箏の最も基本的な調弦は平調子(ひらじょうし)と呼ばれています。まず柱をだいたい下の図のように置きましょう。糸を持ち上げて柱の溝にそっと置きます。



だいたい置きましたら磯(いそ：箏の手前の部分)に柱の位置のシールが貼ってありますから真横から見て、その平調子の位置にひとつひとつセットします。1と5は同じ高さです。



④ 五線譜で書くと

この文化箏ではこのように開放弦をEにセットし、シールの位置に柱を立てますと1の糸がおよそGの平調子になるようになっていきます。参考までに五線譜で書き表しますと下図のようになります。

●平調子

ミ ラ シ ド ミ ファ ラ シ ド ミ ファ ラ シ
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 斗 為 巾

●本来のお箏の平調子

ミ ラ シ ド ミ ファ ラ シ ド ミ ファ ラ シ
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 斗 為 巾

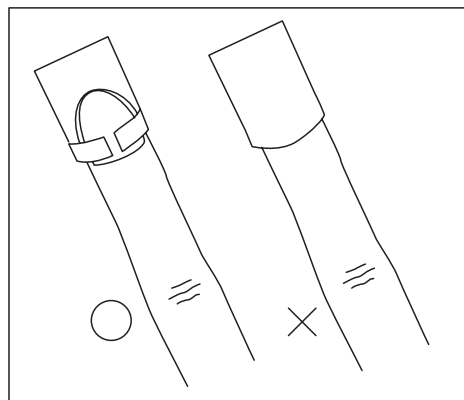
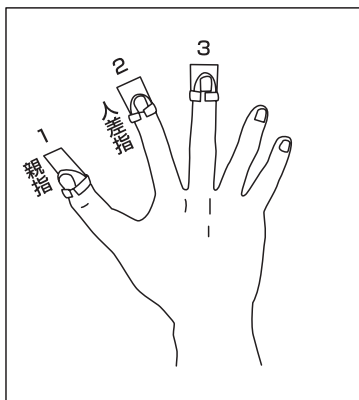
これで平調子に調弦できたわけですが、ただ現実にはお箏の糸というのは絶えず伸び縮みしており、特に糸が新しい時は何日もかけて相当伸びるので、毎日のように糸を引っぱり開放弦の音を合わせ直さなければなりません。また、このシールの位置に一度きちんと合わせても、じきに微妙な誤差が出てきてしまいます。この誤差は結局は自分の耳で判断して合わせなければならないもので、これは文化箏、本来のお箏を問わずお箏を学ぶ人にとって大きな課題となっています。こうした音感は特にこの文化箏のように、知っているメロディーを弾いていくうちに少しずつ養われていくものです。それがお箏の醍醐味であり、楽しさにもつながるものですから、今すぐでできなくても少しずつつかみとっていただきたいと思います。

⑤ 調律器(チューナー)について

とは言っても最初はなかなかうまくいきません。そのために調律器(チューナー)というものがあります。これは電池で正しい音に合わせることができる機器で、今出ている音の音名と高いか低いかという表示が出るようになっています。できれば一台あれば大変便利です。クロマチック式を楽器店でお求め下さい。使い方は簡単です。使用書で十分理解できます。

爪をはめます

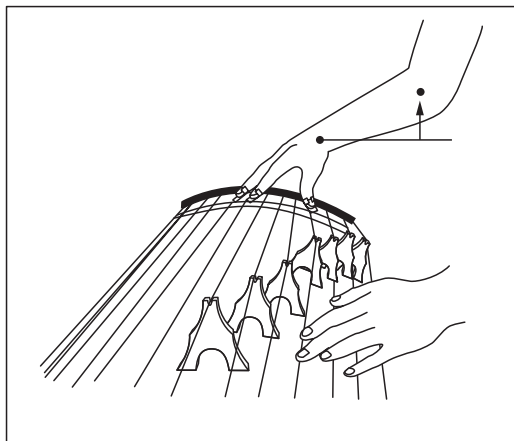
お箏は爪をはめて弾きます。3ヶの爪を親指(1の指)人差指(2の指)中指(3の指)にはめます。はめ方が逆にならないように御注意下さい。付属品として付いているのは爪は3ヶとも同じものですが、フリーサイズですのでどの指にはめてもけっこうです。どうしても合わない時はお湯などで温めて微調整して下さい。今までのお箏の爪をお持ちの方はそれを利用していただいでけっこうです。



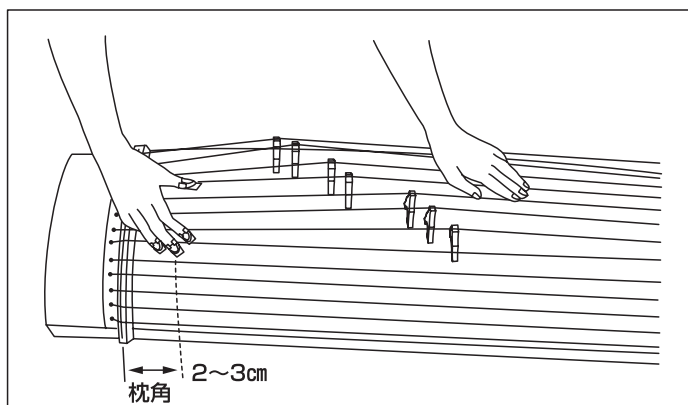
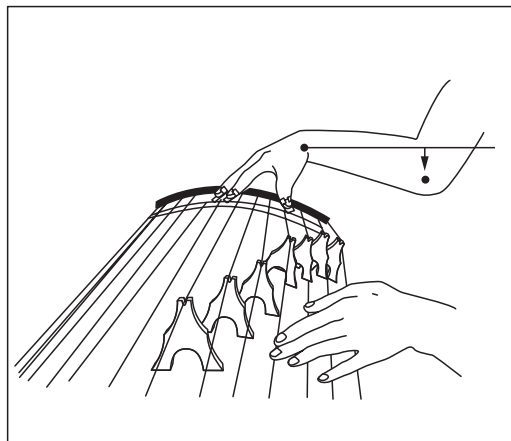
構え方・弾く位置

お箏をテーブルの上に置きます。普通の家庭のテーブルの上に置きますと少し高く感じるかもしれません。そういう時は椅子に座ぶとんを重ねる等工夫して下さい。手を自然にお箏の上に伸ばした時、ひじが手首より上になっている状態がいいでしょう。

○



×



爪を当てる位置は枕角まくらづのから2~3cmの所です。左手は柱しらの左側に軽く添えておきます。

さくら

曲集

日本古謡

$\frac{4}{4}$

7 7 8 ○ | 7 7 8 ○ | 7 8 9 8 | 7 876 ○ |
 さ く ら さ く ら や よ い の そ ら—は

5 4 5 6 | 5 54 3 ○ | 7 8 9 8 |
 み わ た す か ぎ—り か す み か

7 876 ○ | 5 4 5 6 | 5 543 ○ |
 く も—か に お い ぞ い ず—る

7 7 8 ○ | 7 7 8 ○ | 5 6 876 | 5 ⊙ $\frac{1}{5}$ ○ ||
 い ざ や い ざ や み に ゆ—か ん

さ
く
ら

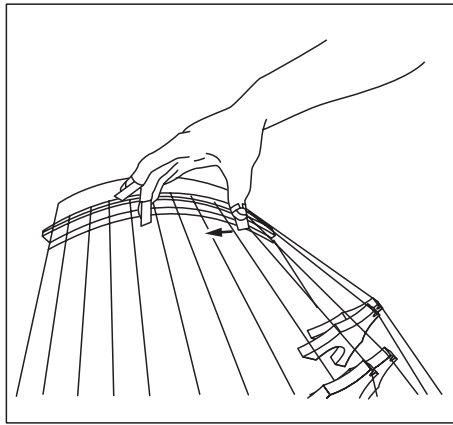
日本古謡

一、さくら さくら

やよいの空は見たす限り
 かすみか雲が匂いぞ出する
 いざや いざや見にゆかん

二、さくら さくら

野山も里も見たす限り
 かすみか雲が朝日におう
 さくら さくら花ざかり



向こうの糸に押しつけるように

有名な「さくら」を弾いてみましょう。親指の爪をしっかりと糸に当て、むこうに押しつける気持ちでひとつひとつ力強く弾きます。

八分音符のかんじをつかんで下さい。

7 8 7 6

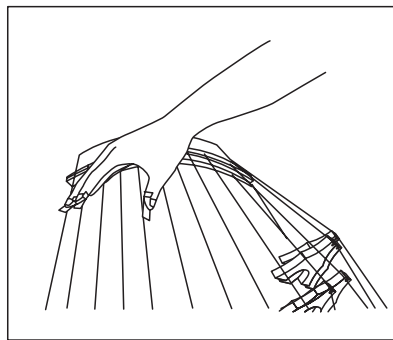
テン コ ロ リン

5 5 4 3

テン コ ロ リン

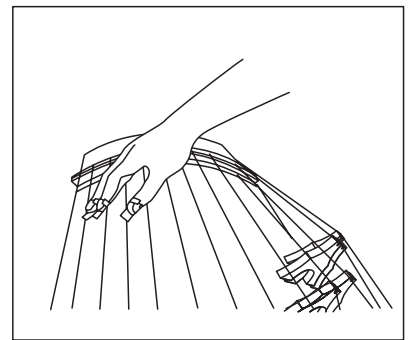
最後の $\frac{1}{5}$ は合わせ爪と言って1と5の糸を中指と親指で同時に弾きます。

①合わせ爪一直前



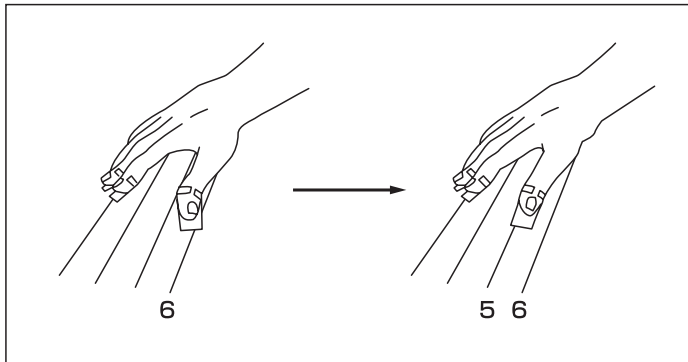
1と5をはじいている

②合わせ爪一直後



2と4を押さえて止める

ある糸を弾いたあと、爪の腹が向こう側の糸にパタッついていないといけません。例えば冒頭の6を弾いた直後、5の糸に爪がしっかりと止まっていなければならないのです。このようにしっかりと弾くといい音がします。



6を弾いた直後
5を押さえている

◎も○も、1拍ぶんきちんと休みましょう。

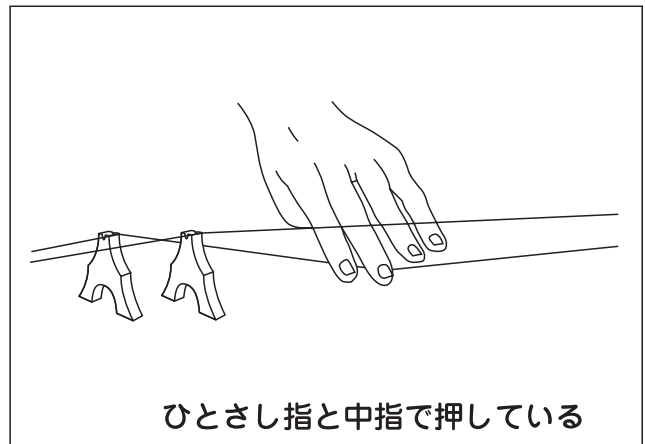
6 ◎ 6 7
タン うん タン タン

6	◎	6	7
1拍 1拍 1拍 1拍			
1ト 2ト 3ト 4ト			

→

オ4は4の柱の右側の糸を左手で押すことによってもとの音よりも1音高い音を出します。柱の左側約10cmくらいの所を2と3の指で上からグッと押します。

次の5の糸を弾くと爪が4の糸にあたってオ4の余韻が消えます。それまで手を放してはいけません。



ひとさし指と中指で押している

いつ き
五木の子守唄

熊本県民謡

$\frac{4}{4}$

$\frac{1}{2}$ 5 7 8 | 9 10 7 ○ | ○ 8 9 10 | 10 ○ ○ 9 |
3 お どん ま ぼん ぎりぼん ぎりぼんから さ きゃ

10 斗 10 ○ | ⑤ ○ ⑤ 9 | 10 斗 為 ○ | 斗 ○ 10 ○ |
お らん と ぼ ん が は よ く

9 8 7 ○ | 9 8 7 ○ | 6 5 7 ○ | ② ○ ② ○ ||
— — りゃ は よ も ど — る

⑤、②…○で囲んである音符は左手ではじきます。

五木の子守唄

熊本県民謡

△おどんま盆ぎり 盆ぎり

盆から先や おらんと

盆が早う来りや 早よ戻る

△おどんまかんじん かんじん

おん人達ア よか衆

よか衆 よか帯 よか着物きもの

△おどんがうっちんだちゆうて

誰だが泣いちゃ くりゆか

うらの松山 せみが鳴く

△せみじゃごんせぬ 妹でござる

妹泣くなよ 気にかかる

△花はなんの花 つんつん椿

水は天から 貰もらい水

こんなすてきな曲集があります

この後はひきつづき「文化箏のための小曲集」でお楽しみ下さい。全国の楽器店で発売中です。

「文化箏^{こと}のための小曲集1」

入門過程の易しい曲がたくさん並んでいます。全曲お箏の最も基本的な調弦である平調子でできています。

曲目……さくら、かぞえうた、つばなふり、花嫁人形、花かげ、十五夜お月さん、五木の子守唄、荒城の月、てるてる坊主、島原の子守歌、通りゃんせ、うれしいひな祭り他

「文化箏^{こと}のための小曲集2」

乃木調子で易しい唱歌をたくさん弾きます。楽しい合奏もあります。

曲目……チューリップ、夕やけ小やけ、ゆりかごの歌、赤い鳥小鳥、かごめ、ちょうちろう、きらきら星、ひらいたひらいた、ぞうさん、とんぼのめがね、春の小川、紅葉、こきりこ 他

「文化箏^{こと}のための小曲集3」

いろいろな手法を学びながら合奏曲も楽しめます。

曲目……朧日夜、赤とんぼ、かもめの水兵さん、早春賦、夏の思い出、みかんの花咲く丘、おもちゃのチャチャチャ、六段からこ火降No.4、No.5順次刊行予定

これからは日本文化の時代です

私たちはとかく外国文化に目をうばわれがちですが、もっと自分たちの足元をみつめ直す必要があるのではないのでしょうか。そういう意味では、お箏は最もその中心的な存在になると思います。とりわけこの文化箏は、本来のお箏がとかく高度な内容を追求しがちであるのに対し、気軽に楽しむことができます。

オモチャの感覚、遊び心——それは本来、私たち人間にとって最も大切なものではないのでしょうか。

本来のお箏^{こと}とは違います

小さなお箏というだけでなく、あるいは本来のお箏の高音域を担うというだけの意味ではなく、ひとつの独立した楽器と考えています。庶民にとってのお箏と言ってもいいでしょう。文化箏は楽譜集も教育システムも備えたひとつの“文化”なのです。

大正琴とも違います

大正琴もポピュラーな楽器ですが、大正琴は本体も糸も金属製なのに対し、文化箏は本来のお箏と同じように桐の胴体にテトロン糸が張ってあります。そのため音色はやわらかく、私たちの感覚にぴったりです。

こと 文化箏教室のご案内

文化箏で弾く曲は良く知られた曲が中心になっています。そのため、かなり独習できますが、わかりにくい所もあり、実際に指導してもらったほうが早く上達します。そのために文化箏の指導教室を開いています。初心者でもわかりやすいように専用のテキスト、カリキュラムを用意し、楽しく順を追ってゆっくり上達できるように配慮されています。

教室は原則として月2回、1回につき1～2時間程度で、グループレッスンです。進度の目安がわかりやすいように1年ごとに初級、中級、上級と区切り、3年間で一応終了します。ただし希望者は上級終了後もひきつづき研究科として残ることができます。

テキストは専用テキストを用います。楽しそうな曲がゆとりをもって学べるようになっていますので、どうぞ御参加下さい。尚、テキストは一般教室用とは別に、学校教育用(5線譜併記)も用意してありますので、学校でも簡単に学べるようになっています。詳しくは下記へおたずね下さい。

●問合せ先……最寄の楽器店または

文化箏音楽振興会本部(03-3227-6270 ゼンオン内)

クラス	テキスト	期間(月2回、24レッスン)
初 級	専用テキスト 初 級	最初の1年
中 級	専用テキスト 中 級	2年目
上 級	専用テキスト 上 級	3年目
研究科	専用テキスト 研究科	4年目以降

安全へのこころがけ

ご使用になる前にこの「安全へのこころがけ」をよくお読みになり、内容をご理解のうえ正しく安全にご使用いただけますようお願いいたします。



この表示を無視して誤った取扱いをすると使用者が傷害を負う可能性、財産が損害を受ける危険の恐れのある内容を示しています。

楽器の取扱いについて

- 龍角、雲角は楽器の構造上、先が尖っています。顔や体にぶつけてけがのないよう注意して下さい。
- 楽器を振り回すなどの乱暴な取扱いは避けて下さい。他の人を傷つけるなど思わぬ事故の原因となります。
- 箏柱は、箏の甲らにしっかりとたてて下さい。足が甲らについていないため、思わぬ方向に飛び出し、顔や目を傷つけることがあります。
- 爪は使いこむうちに消耗します。変形したり、ひびが入ったら新しいものをご購入下さい。爪が折れて身体を傷つけることがあります。注意して下さい。

糸の交換について

- 糸を交換するときや調弦をするときは顔を楽器に近づけ過ぎないようにして下さい。絃が不意に切れて目を傷つけたり、思わぬケガの原因となることがあります。
- 糸は張り過ぎると切れます。張り過ぎないようにご注意下さい。

保管について

- 専用のケースに入れて倒れない安定した場所に置いて下さい。



爪はセルロイドです。170℃以上になると発火します。火気の側には置かないで下さい。また、直射日光、高温、多湿等を避けて保管して下さい。

品質には、万全を期しておりますが、万一不都合がございましたらお買い上げの店又は、下記にご連絡下さい。



ゼンオン

株式会社全音楽譜出版社 〒161-0034 東京都新宿区上落合2-13-3 ☎ 03-3227-6270
URL:<http://www.zen-on.co.jp>